

5. 私たちのきょう土につたわるねがい

人々は昔から、安全で豊かなくらしをしたいと願っていました。あれ地を開いて田畑にしたり、用水路をつくって田畑をひろげました。しかし、会津地方は川が多く、洪水もたびたびおこりました。人々は長い間たいへんな苦勞をして、今日の会津坂下町をきずきました。

(1) 町の発てんにつくした人びと

水害のれんぞくだった会津坂下町

昔の会津坂下町は、毎年のように水害に悩まされていました。1年の間に何回も洪水になることもありました。町の東側を大川が流れ、さらに大塩川・濁川が合流して北側を流れ、宮川・鶴沼川が合流して阿賀川となります。

これらの川が合流するところは、土砂が積み重なって川底が高くなり、流れが悪くなるのです。また、川西地区などで川が袋の形に曲がりくねっているところがありました。これらの場所が洪水の原いんとなっていました。

【会津坂下町のおもな水害の歴史】

1419年（応永26年）洪水で大川が宮川に合流して鶴沼川となる。

1536年（天文5年）白ひげ洪水。塔寺・坂下間で水深24mとる。

1611年（慶長16年）地震による山くずれにより山崎新湖ができる。

1631年（寛永8年）次郎水とよばれる洪水。山崎がまた湖となる。

白ひげ洪水より水位1m上がる。

1723年（享保8年）大洪水。坂下・塩川間に舟を通す。白ひげ洪水

より水位1m上がる。

1956年（昭和31年）坂下・柳津大水害。

1973年（昭和48年）片門・柳津大水害。

洪水が多くて
たいへんだったね。

